

台湾国立成功大学・国家地震工程中心と名古屋大学の共同実験，学術交流会

担当教員：長江拓也，西澤泰彦

本学大学院環境学研究科と台湾国立成功大学設計学部は2024年3月に、学術交流協定の更新および学生交換協定の締結を行いました。これを受けた日本学生支援機構の研究留学プログラムにより国立成功大学に長期留学の大学院生（2024年4月～9月）が、両国に共通する建築耐震課題に関する共同研究を推進しています。こうした中、「設備，非構造材含む包括耐震性能評価の振動台実験（2024年7月30日～8月7日）」が開始され、大学院生，学部生合計10名が現地にて実験に参画しています。第一弾として，日鉄エンジニアリング株式会社との共同研究により振子型滑り免震機構の性能が検証され，さらなる性能向上のための課題が抽出されました（日本側参加大学：北海道大学，東京大学生産技術研究所）。4月に国家地震工程中心と実施した台湾花蓮地震の被災地調査結果と対比する実験が，引き続き実施されます。7月31日には，国立成功大学設計学部において学術交流会議が実施され，明治時代にRC造建物を新規開拓した台湾建築の歴史に関する講演の後，今後の共同研究を視野に，現在取り組む課題に関するプレゼンテーションが教員間，学生間で交換されました。



資金等：

日本学術振興会・科学研究費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）：22KK0063